

熊本女子大学

# 国文研究

昭和五十年

第二十一号

熊本女子大学国文談話会

# 国文研究

## 目次

### 研究

わらしべ長者考

—— 宇治拾遺物語を中心にして —……………石原 幸子

謙讓の補助動詞に関する一考察

—— 平安鎌倉期の和文資料による —……………永江 和子

安部公房とフランツ・カフカ

—— メタモルフォーゼをめぐって —……………原岡 弘子

良寛

—— 和歌を通して見たその人間像 —……………宮腰 千絵

「実隆公記」を読む(一)

—— 公卿と連歌師 —……………重松 裕巳

### 解釈と鑑賞

狭衣物語解釈 (11)

……………本田 義彦

昭和五十年 九月三十一日 印刷  
昭和五十年 十月一日 発行

「国文研究」 第二十一号

熊本市大江二丁目七番一号

編集者 熊本女子大学国文談話会

発行者 代表者 本田義彦  
印刷 印刷

熊本市二本木三丁目十二一三七  
電話代表 五三一二二九一

う思うでしょ。  
そんな後悔と新しい喜びに満ちて現在がんばっている私  
です。

それではお体に気をつけてあなたもすっかりがんばって  
下さい。また手紙出します。

六月末日

さよりなら

## 談話会便り

仕事もよくわからぬまま談話会を引き継いで四ヶ月。少  
しずつ覚えてきているこの頃です。昭和五十年一月からの  
行事をあげてみました。これからも頑張っていくつもりで  
す。

一月十三日 特別講義「日本文学と中国文学」松下忠名誉  
教授（於西講堂）

二月 八日〔午前〕昭和四十九年度卒業論文要旨発表会

〔午後〕予餞会（岩田屋伊勢丹デパート）

二月十五日 山本捨三教授退職記念特別講義

二月十八日 新旧役員引き継ぎ会

四月十五日 昭和五十年度国文談話会入会式（於十番教室）

四月十九日 新入生歓迎遠足（江津公園）―雨天の為中止

## 編集後記

春休み頃から原稿集めにあたふた動き回り、やっとここ  
までこぎつけたなあ、と感慨もひとしおです。思うに、原  
稿集めは私達の心配とイライラの種でありました。在学生  
から原稿が集まらずハラハラしたり、卒業された先輩から  
の原稿がしめ切りを過ぎて届かなかつたり：。しかし、  
全然お会いしたこともない先輩方と連絡のやりとりをする  
うちに、そのあたたかい励ましのお言葉に勇気づけられた  
こともありました。この仕事で、心配やイライラ以上に得  
たすばらしいものです。ともかくも、この国文研究二十一  
号及び会誌を皆様方のお手許にお届けいたします。役員み  
な大きな肩の荷をひとつおろし、嬉しくて甚らない気持ち  
です。皆様、特に原稿をお寄せくださった（というより、  
書かされたというお気持ち強いのではないかと思います  
が）皆様、御協力ほんとうにありがとうございます。私  
今夜は出来上ったこの雑誌を抱いて眠ることでしょう。

### 役員

古賀 景子	長井 幸子	大橋 鶴容
宮本小夜子	岸川久美子	西沢 五代
秋吉美登里	石田 啓子	上田真由美